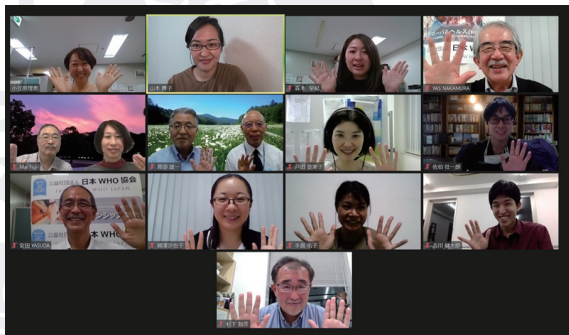


KGHの集いオンラインセミナー第2弾

ポスト・コロナ時代の保健医療



関係者集合写真（第2回セミナー）

Covid-19 が社会の常態を一変させて以来、日本 WHO 協会ではいち早く関西グローバルヘルスの集い（KGH）をオンラインセミナー化し、生産技術振興協会と共催で、5、6、7月に第1弾の3回シリーズを企画し、保健医療の専門家のみならず、広く一般の方々に Covid-19 に関する最新の知識と、世界の状況を発信してきました。

第1弾：「Covid-19 と SDGs」

- ・第1回「世界の景色が一変したなかで、明日への持続可能性の道を探る」
- ・第2回「だれひとり取り残されない！」
- ・第3回「地球規模での持続可能な共生を目指して！」

Covid-19 の流行には第2波、第3波と全く収束の気配がみられないなか、KGH ではオンラインセミナー第2弾を配信しました（9月～11月）。そして、ポスト・コロナ時代を先取りし、今後の保健医療のあり方として、「単にコロナ前に戻すだけでいいのか」ということを問いかけました。自然災害からの復興で学んだことは「災害前よりもいいものを創りあげるのだ（ビルド・バック・ベター!）」という前向きの姿勢です。Covid-19 からの復興では、新しい感染症にも対処できる、しなやかで強靱（レジリエント）な医療のかたちを早急に準備していく必要があるでしょう。第2弾シリーズでは、世界の保健医療関係者

がこの四半世紀の間に築きあげてきた保健医療に関する3つの文書と理念のなかに、未来をひも解くカギがあるのではないかと考え、その理念を深く掘り下げて議論することにより、ポスト・コロナ時代の医療のあり方を考えました。

- ・「プライマリヘルスケア（PHC）」
（1978年：アルマアタ宣言）
- ・「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」
（2015年：持続可能な開発目標）
- ・「Health and well-being」
（1946年：WHO 憲章前文）



日本 WHO 協会・生産技術振興協会
オンラインセミナー第2弾 3回シリーズ
ポスト・コロナ時代の保健医療

第2弾 「ポスト・コロナ時代の保健医療」

第1回 生活と仕事に最も近い場での医療：プライマリヘルスケア（PHC）

- ・ポスト・コロナ時代に PHC が再評価される
中村安秀氏（日本 WHO 協会、甲南女子大学）
- ・感染症対策と PHC の関係
スマナ・バルア氏（星槎大学、元 WHO SEARO ハンセン病担当官）

第2回 医療にアクセスしたい：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の重要性と必要性

- ・COVID-19 を経て考える UHC の重要性
杉下智彦氏（東京女子医科大学）
- ・インドネシアの小さな島での医療アクセス
柳澤沙也子氏（日本 WHO 協会・甲南女子大学）

第3回 健康ってなあに？：ヘルスとウェルビーイングの原点を探る

- ・等身大の〈わたし〉からみたヘルスとウェルビーイング
熊谷晋一郎氏（東京大学先端科学技術研究センター）
- ・医療人類学からみたヘルスとウェルビーイング
池田光穂氏（大阪大学 CO デザインセンター）